

2015年12月10日

リバティおおさかの皆さま
リバティおおさか裁判を支援する皆様

リバティおおさか存続のための国際連帯メッセージ

反差別国際運動（IMADR）の理事をしているテオ・ファン・ボーベンです。
私の名前を大阪人権博物館（リバティおおさか）の存続とその役割の向上に賛同する支援者の中に加えてください。

その理由について、私は以下の点を強調したいと思います。

第一に、当博物館は部落解放運動と人権全般について、歴史的にたいへんな重要性をもつということ。

第二に、当博物館が日本の大阪に位置し、過去数十年にわたって何十万人もの多くの人びとの関心を引きつけてきた、ユニークな施設であるということ。

第三に、当博物館は現在と未来の世代に対するメッセージと使命を持っていること。大阪人権博物館の閉鎖は、人権教育、および正義と平和に内在する価値観に賛同する社会に対して甚大な悪影響を与えることになるでしょう。

博物館存続を支援するこれらの理由が広く一般に普及することを、心から希求し確信しています。

テオ・ファン・ボーベン
マーストリヒト大学教授（オランダ）
反差別国際運動理事（IMADR）
（国連初代人権センター長）

